

圓教寺と芸能

圓教寺とその僧侶、そして圓教寺を訪問した有名な人々についての物語が、日本文学や演劇の中に見られる。初期の例は、寺院の開祖性空上人（910-1007）の生涯に関するもので、宮廷女性で著名な歌人であった和泉式部（976-1030）は、精神的な指導を求めて性空上人に和歌を送った時のものだ。この和泉式部の仏教的描写が豊かな和歌は、当時の最も栄誉であった勅撰和歌集に収録された。和泉式部のこの和歌は開山堂のすぐ北にある石碑に刻まれている。

日本で最も有名な中世の軍記物語の 1 つである太平記のお話は、1333 年に後醍醐天皇が鎌倉幕府打倒の祈願のために圓教寺へ訪問したことについて詳しく語っている。太平記が書き直され大衆化されるにつれて、その後の数世紀にわたって、舞台演劇を通して普及し、圓教寺は広く知られるようになった。

14 世紀後半、上流階級の間で人気が高まるにつれて能が注目を集めるようになった。性空上人は世阿弥元清（1363 頃-1443 頃）によって書かれた能「江口」の中で重大な役割を演じている。劇中である男が語る性空上人についての物語の中で、この劇の主人公であり、亡くなった江口の君が普賢菩薩の化身であるという可能性が示唆されている。2006 年、性空上人没後 1000 年の記念に圓教寺常行堂の舞台で「江口」が上演された。圓教寺の三つの堂は画になる舞台であるため、トムクルーズと渡辺謙主演の『ラストサムライ』（2003）など、いくつかの主要な歴史的テレビドラマや映画にも登場している。